

インターバンクの声（2014年9月3日）

今週は、米国雇用統計の発表の前に、ドル円は104.50をトライすると予想する声は比較的聞こえていた。また、最近の傾向として、米国雇用統計の発表がある週は、ドル円は強含んで推移することが確かに多かった。

ただ、米国雇用統計発表前にドル円が105円を越えてくる展開を予想する人は少なかったのではないだろうか。

昨日の東京市場では、塩崎元官房長官が入閣するとの報道を受け、同氏がGPIF改革派であるとの理由から海外勢を中心に、日経平均先物が主導する形で、ドル円も上昇した。日経平均株価も7ヶ月ぶりの高値水準にまで上昇して引けている。

ニューヨーク市場に於いても、8月の米製造業総合景況指数が3年5ヶ月ぶりの高水準となったことを受け、ドルが全面的に買われる展開となった。米10年債利回りの上昇幅も、7月30日以降で最大となった。

ドル円相場はやや急激な上昇であり、投機的な印象を受けた感は否めないが、今日にも年初来高値である105円45銭を試しにいく展開が十分に考えられる状況である。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。